

地域の情報 18

都心

2023年(令和5年)

12月5日

火曜日



中日新聞東京本社

〒100-8505
東京都千代田区内幸町
二丁目1番4号
TEL 03-6910-2211

新聞を人生の
パートナーに

お問い合わせ
平日9:30~17:30

◆紙面への質問・意見
03-6910-2201

◆配達・集金
03-6910-2556

購読も ためしよみも
おひろで キュキュキ

東京新聞

東京の社会風景を紹介する作品を前に話す等々力馨斗さん左、及川穂乃佳さん中、後藤範章教授＝世田谷区で



東京の社会風景 日大生が写し分析

大学生が撮影した東京の風景を社会学的に分析して紹介する「写真で語る：『東京』の社会学」展が5日、日大文学部図書館(世田谷区桜上水3)で始まる。同大の後藤範章教授(67)は都市社会学のゼミ生が、撮影現場で観察や聞き取り調査をした考察を添えた。9日まで。

新作9点と過去に制作した4点

文学部図書館で

を展示する。少年少女や外国人、年配者と多様な人々が集まる新宿・歌舞伎町の通称「トー横」(新宿東宝ビル横)、羽田空港へ向かう人と通勤通学客で混雑する京急品川駅のホーム、コンサートが開催された東京ドームなど、「東京」や「東京人」を象徴する作品が並ぶ。

新宿の商業施設内にある休憩スペースは、通路と反対向きに椅子が配置され、通行客と視線を交わさずに過ごせることから、タイトルは「透明人間になれる無料休憩所」と付けた。学生が調査した日は5時間で194人が利用し、最長で2時間余滞在した人もいた。

ゼミ長の同大4年、等々力馨斗さん(23)は「普段見てなかったり見逃したりしている東京の社会風景に焦点を当てた」と説明。副ゼミ長の4年、及川穂乃佳さん(22)は「考察とともに過去作品と比べながら見て、考えて」と話した。

作品の発表は後藤教授が1994年から続け、30回目。新作の展示は今回が最後になる予定で、後藤教授は「東京と東京人のあり方が時代とともに変わっていることが見えてくる」と語る。午前10時半～午後6時半。入場無料。

(奥野斐)